

防災SP養成研修の課題と今後の進め方について(案)

課題1：レベルに応じた学習内容、課題2：新しいニーズへの対応、課題3：講義時間や回数の充実

<主な意見>

【課題1】

- ・どのような業務でも、実務を担う職員と調整を担うマネジメント職員が必要であり、その認識のもとで整理すべき。
- ・コースによって、ベテラン向けと初心者向けに編成できるもの、レベルに応じた内容をどう区分するか考える必要のあるものがある。
- ・幹部ではあるが防災に関して知識が新任レベルの職員向けの研修を用意してはどうか。各コースを横断できる研修（各コースの総論の構成など）があるとよい。
- ・立場や役職に応じて受講するとよいコースを示した資料、チラシなど、対象者がコース選択時の参考となるガイドを用意してはどうか。
- ・オンデマンド講座は、防災担当者は複数の個別課題選択できるとよい。立場にとらわれず、需要に応じて自由に受けられるようにしてもよいのではないか。

【課題2】

- ・避難所運営や住家被害認定調査、罹災証明発給など学習すべき内容が多いものや、実施が求められる個別業務であるもののコース内で取り扱っていない業務などについて、新たなコースを設定するなどして対応していく必要がある。
- ・「地域による地区防災計画の作成及び実施」を望む自治体が増えていることを踏まえ、これに応じた対応もできるとよいのではないか。
- ・幹部職員は、他部署との調整、議員や市民への対応、メディア対応など、組織内外との調整が重要な仕事になる。それらを学習できるとよいのではないか。
- ・地域研修について、基礎等はオンデマンドを学ぶ、対面による演習を通じて地域に根付いた課題を考え、地域内で顔の見える関係を構築する、ことができるとよいのではないか。

【課題3】

- ・オンデマンドの活用により、地域研修の回数や日数を見直す必要があるのではないか。

➡ 有明の丘研修、地域研修の座学（オンライン）コンテンツの充実 詳細は、資料2-2-1参照

課題4：レベルに応じた人材ネットワークの構築

<主な意見>

- ・演習を職階ごとに実施する等の工夫により、顔をあわせて議論する場を作ることになるため、職階ごとの人的ネットワークの構築ができるのではないか。

➡ 有明の丘研修、地域研修の対面演習等の充実 詳細は、資料2-2-2参照

課題5：学ぶべき時期と研修時期、課題7：短時間で理解できる教材

<主な意見>

- ・動員職員が、動員時などの緊急的な状況下でも見るができるよう、いつでも見ることのできる仕組みがあるとよいのではないか。
- ・有明の丘研修や地域研修は、出水期前に実施できることが望ましい。
- ・アップデートされたコンテンツを再受講できる仕組みがあるとよいのではないか。

➡ eラーニングの推進 詳細は、資料2-2-3参照

課題6：トレーナーの育成

<主な意見>

- ・有明の丘研修や地域研修などでの受講者拡大をはかり、また定期的かつ継続的な研修の実施を行うためには、単元の一部を担当できる講師の育成が必要。トレーナートレーニングコースを新設し、講師の育成をはかるとよいのではないか。

➡ 研修指導要領の作成等と併せた新たなコンテンツの整備（中長期）